

2010 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	情報社会学		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

今回が初めてのチューターだったが、意外とみんなまじめに授業を受けて考えているのだというのが率直な感想である。講義ごとに提出するコメントカードを読んでいると、ほとんどの人が授業について一生懸命に考えてくれていてチューターとしてはうれしく思った。しかし、中にはコメントをまったく書かずに名前だけ書いて提出する人もいて少し残念であったとともに、それでは授業に出ている意味もないのではと思った。また、授業内で何度かおこなったグループディスカッションでは、前のほうに座っているグループはしっかり議論していたが、後ろのほうのグループはやや議論に熱がこもってなかった感じがした。そういったグループを盛り上げるのがチューターの役割だと思うのだが、うろうろするだけでなかなかディスカッションに参加することもできなかった。そこらへんが至らない点であったと思うとともに、グループワークの難しさであると感じた。仕事内容に関しては、出席表の打ち込みとレジユメの配布だけで、ほとんどは席に座って授業を聞いていただけだったので、もう少し先生へ提案したりなどできることが多くあったはずだと思う。もう少し頭を使えれば良かったと思った。

<今後のチューターまたは先生への提案>

グループディスカッションのような参加型の講義形式は生徒に飽きさせないので良いと思う。なので、そういった参加型の授業をもっと増やしていくことで、通常の大学の講義ではなかなか養えない自分の意見を発信する力や人の意見を聞く力などコミュニケーション能力を高めることが大事になってくるのではないか。その能力は今後の就活にも生きてくると考えている。